

アセスメントの意義や目的を踏まえ、様々なアセスメントの基本的内容を理解し、実態把握や情報収集、行動観察の方法などを身につける。発達障害のアセスメントによく活用されている発達検査・知能検査、学力や認知機能、行動・社会性に関する検査についても概要を理解し、得られた結果を対象者本人にとって有用な指導・支援に活用できることを目指す。

## ◆主な内容◆

- ・アセスメントの意義や目的
- ・実態把握、情報収集、行動観察の方法
- ・本人・保護者への面接・面談（インテークの重要性）
- ・発達、心理、学力、行動、社会性のアセスメントの種類や特徴と結果の解釈

## ◆研修講座名（例）◆

「アセスメントの基本的理解とその活用について」（講義・演習 90 分）

○発達障害支援におけるアセスメントの概要とその意義（講義 45 分）

- ・アセスメントを実施する意義や目的について解説する。
- ・実態把握に有用な情報収集と行動観察の方法及び、本人・保護者への面接・面談を行う上で望まれる姿勢やインテーク面接の重要性について解説する。
- ・発達障害のアセスメントによく活用されている発達検査・知能検査、学力や認知機能、行動・社会性に関する検査や基本的な結果の解釈、機能的アセスメント等について解説する。
- ・発達障害児の支援においては、アセスメントから得られた情報を包括的に解釈し、一人一人に合った支援方法を組み立てることが重要であることを解説する。

○発達障害支援におけるアセスメントの実際（演習 45 分）

- ・具体的な事例（または模擬事例）からの情報収集や行動観察から得た情報を整理させる。
- ・事例を包括的に理解するための実態把握における着眼点を確認させる。
- ・よく活用されている検査について、結果（模擬事例）を例示し、考えられる課題について予測させる。
- ・情報収集や行動観察から得た情報に、検査結果から考えられる課題等を合わせて、日常生活において有効だと考えられる具体的な支援方法について協議させる。

## ◆到達指標◆（教育関係者・福祉関係者共通）

**初級**：アセスメントの意義や目的を理解し、手順や方法について基本的な事項を説明できる。

**中級**：様々なアセスメントの基本的な事項に関する内容を踏まえ、アセスメントの結果を活用し、個に応じた支援を実践できる。

**上級**：様々なアセスメントの結果を活用し、他機関・他職種と連携を図りながら個に応じた具体的な支援の方法を提案できる。